

OKURA

個人投資家向け会社説明会

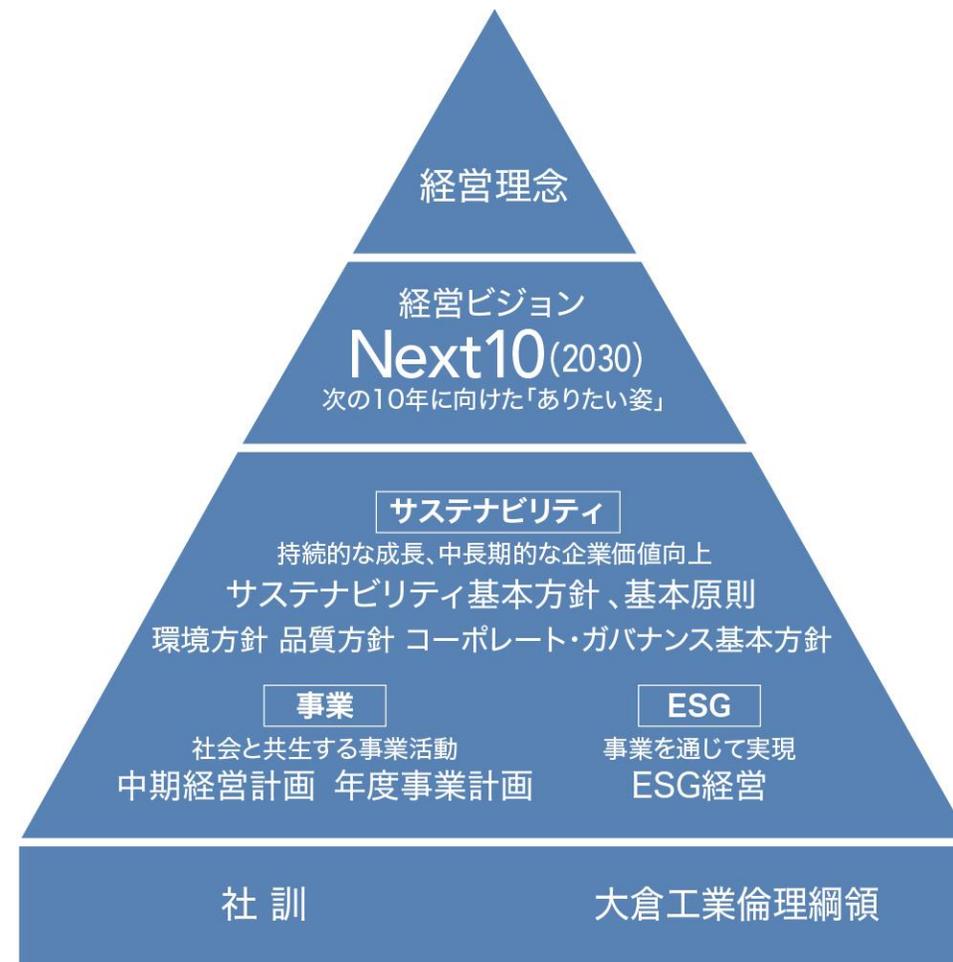
2026年2月20日

 **大倉工業株式会社**

証券コード：4221

C O N T E N T S

1. 本日本日お伝えしたいこと(まとめ)
2. 大倉工業について
3. 成長戦略
4. 株主還元・株主優待
5. 参考資料

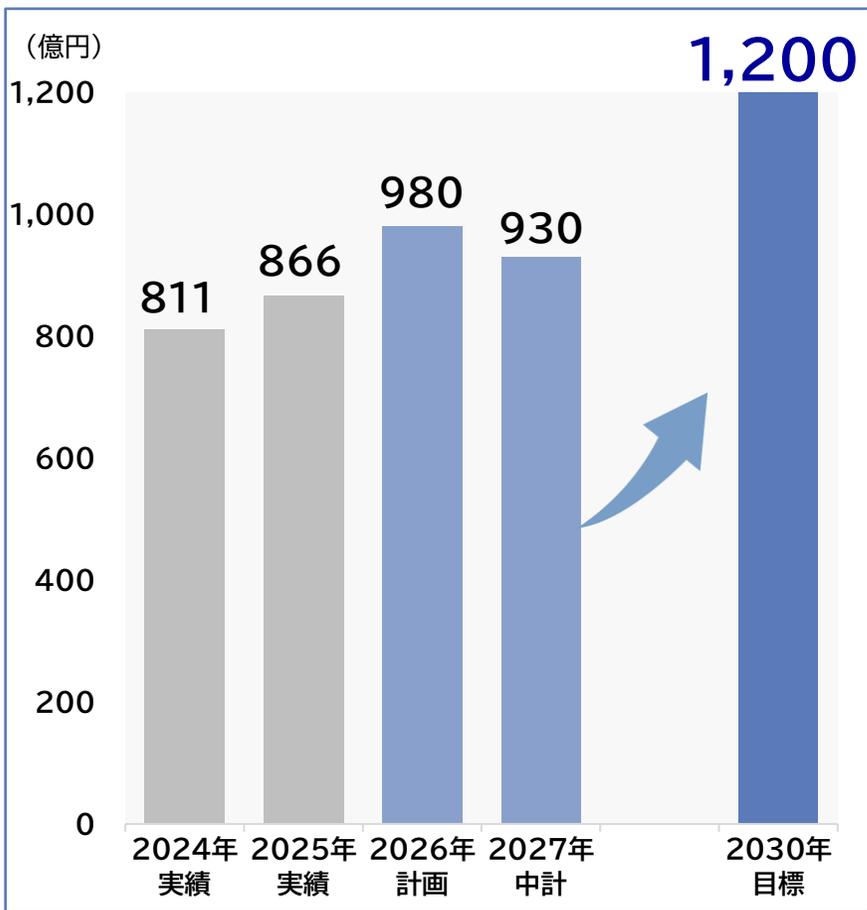


1. 本日本日お伝えしたいこと(まとめ)

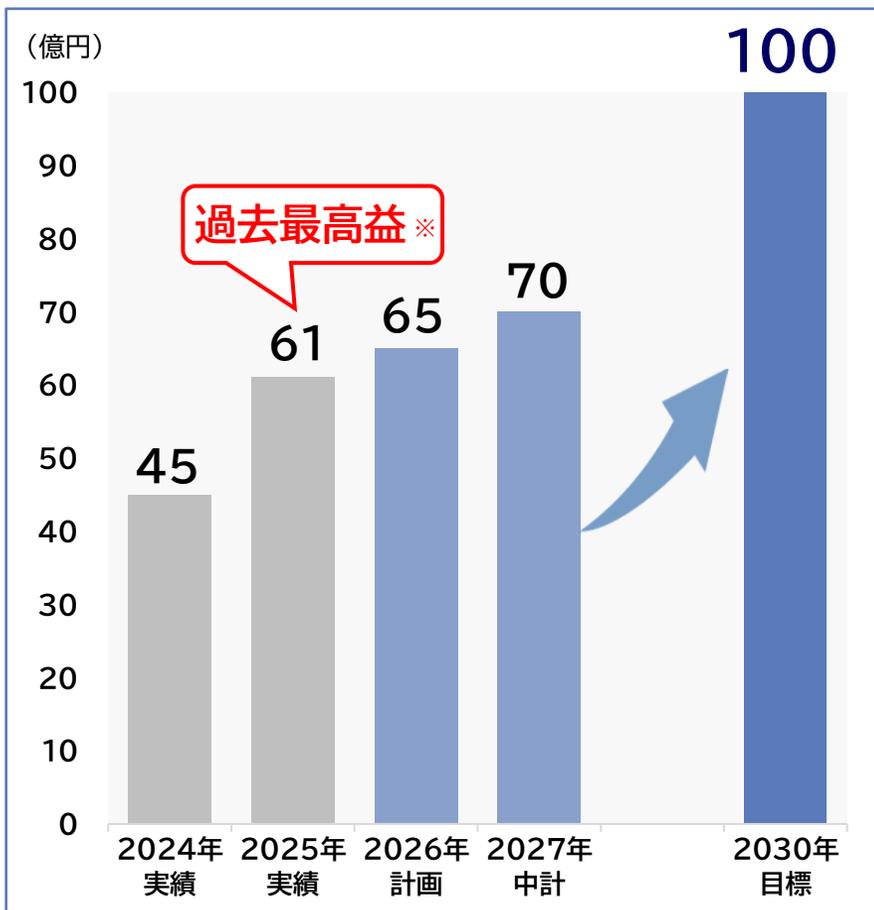
力強い成長戦略

2030年に『売上高:1,200億円、営業利益:100億円』の実現を目指す

【連結売上高実績/計画】



【連結営業利益実績/計画】



2030年の目標達成に向けて

成長分野 × 成長市場

での事業拡大を強化



成長分野

情報電子、プロセス機能材料、
環境・エネルギー、ライフサイエンス

成長市場

海外売上高の拡大



成長戦略実現のため、成長分野・
市場へM&Aを含む積極投資を推進

※連結決算導入後

中期経営計画(2027)での成果

フジコーのM&Aや情報電子分野での拡大など、着実に成果を創出

2030年の目標達成に向けて

成長分野 × **成長市場**
での事業拡大を強化



成長分野

情報電子、プロセス機能材料、
環境・エネルギー、ライフサイエンス

成長市場

海外売上高の拡大



成長戦略実現のため、成長分野・
市場へM&Aを含む積極投資を推進

成長分野

- 2026年1月に、株式会社フジコーの全株式を取得し、連結子会社化
- 同社は、自動車、情報電子、半導体分野で、卓越したフィルム加工技術を強みに強固な顧客基盤を確立



今回のM&Aにより・・・

- 両社の技術・開発力を融合し、フィルムの製造から加工まで垂直統合型の開発・生産体制を確立する
- 統合によるシナジー効果を最大化し、2030年に単独営業利益10億円を目指す

成長市場

海外売上高の拡大に向けた成長ドライバーは・・・

「大型液晶パネル向け 光学フィルムの拡販」

【市場環境】

- 世界のTV市場は大画面化が継続し、偏光板需要は年率2～7%の伸長見通し
- 更に、高精細・高輝度・広視野角化など、高機能化が進展

- 当社が提供する高機能の光学フィルムは、外部環境の成長機会を活かす強みとなる

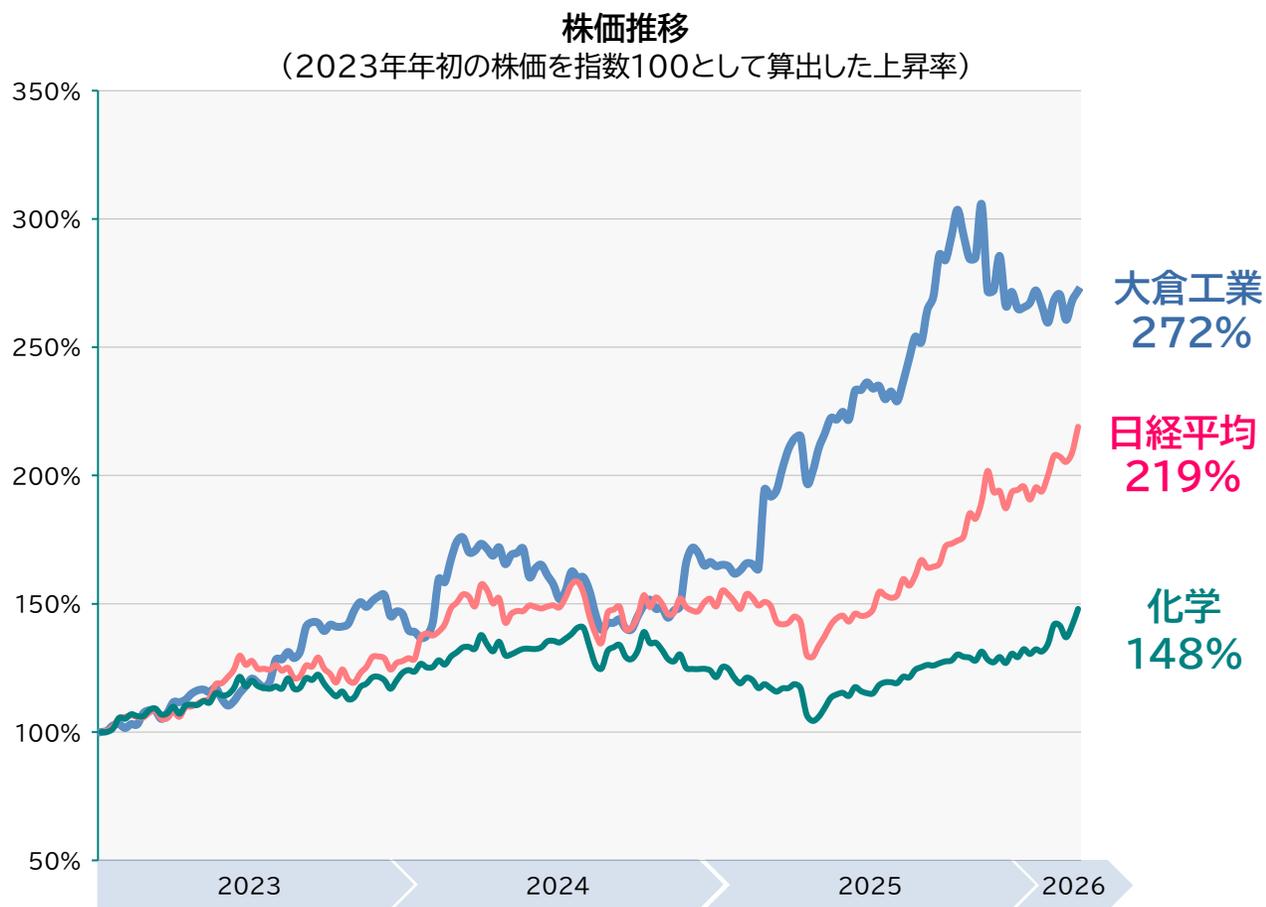


- 生産体制の強化と拡販で、市場優位性を確立し、グローバル競争力を向上する

株主還元の更なる拡充

PBR1倍早期達成を通過点とし、資本効率性向上と株主還元拡充によって株主価値の最大化を追求

	2024年実績	2025年実績	2026年予想
DPS (1株当たり配当金)	160円	195円	220円
DOE (連結自己資本配当率)	3.0%	3.5%	4.0%
配当性向	44.6%	58.2%	57.8%
総還元性向	72.5%	89.8%	57.8%
配当利回り	5.3%	4.0%	4.4%
		(2025年12月末時点)	(2026年2月13日時点)



2. 大倉工業について

創業の精神

～従業員を守り、社会に役立つ～

創業者の松田正二が、第二次世界大戦後、「部下とその家族の生活を守りたい」、「戦災で家を失った人々に必要な住宅を提供したい」という思いで、香川県高松市で事業を開始しました。

この「従業員を守り、社会に役立つ」という創業の精神は、時代が変化しようとも忘れてはならない精神であり、誇りに思い大切にしています。



名前の由来

創業者 松田正二が
長年お世話になった

松田正二が
10年勤めた

倉敷紡績 社長

大原 總一郎氏

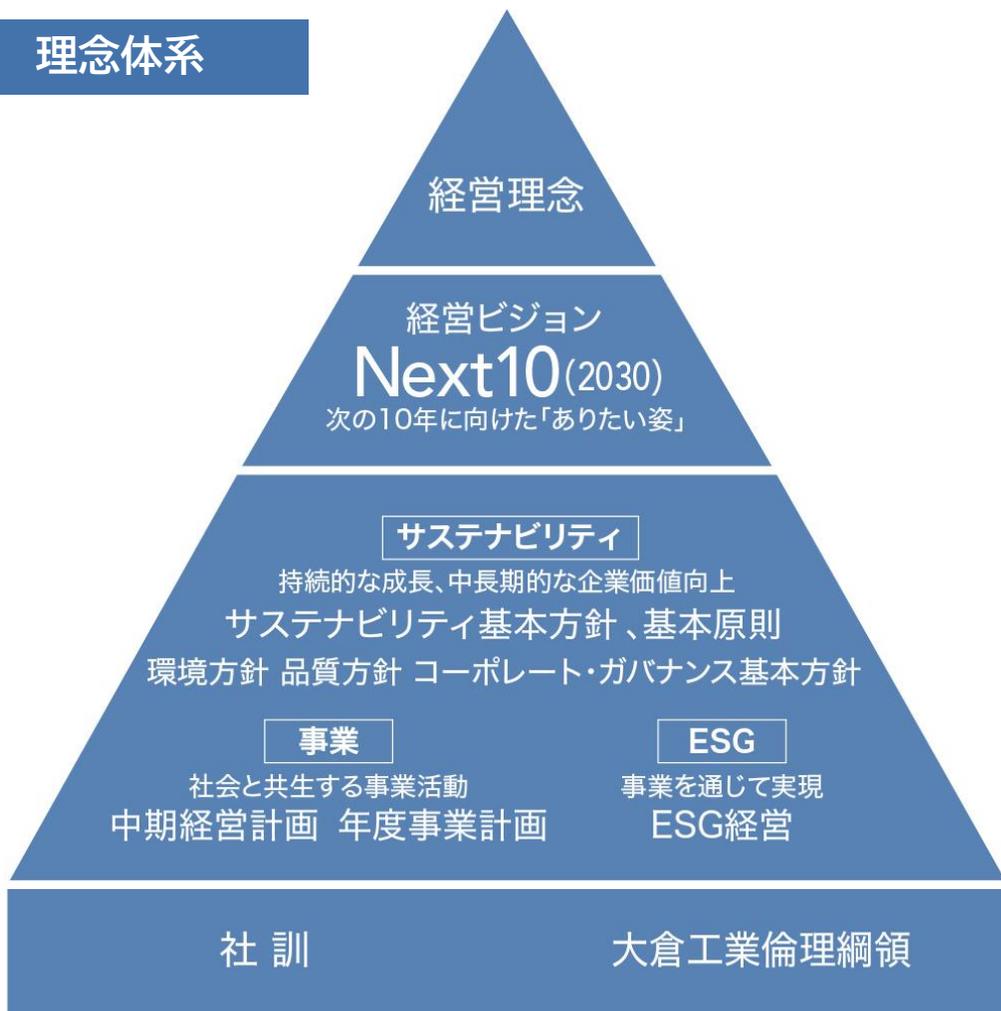
倉敷紡績株式会社

「将来は倉敷紡績より大きくなりたい」という希望を込めて...

1955年11月 **大倉工業株式会社** とした

目指す姿

理念体系



サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、
事業を通じて、
社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

会社概要

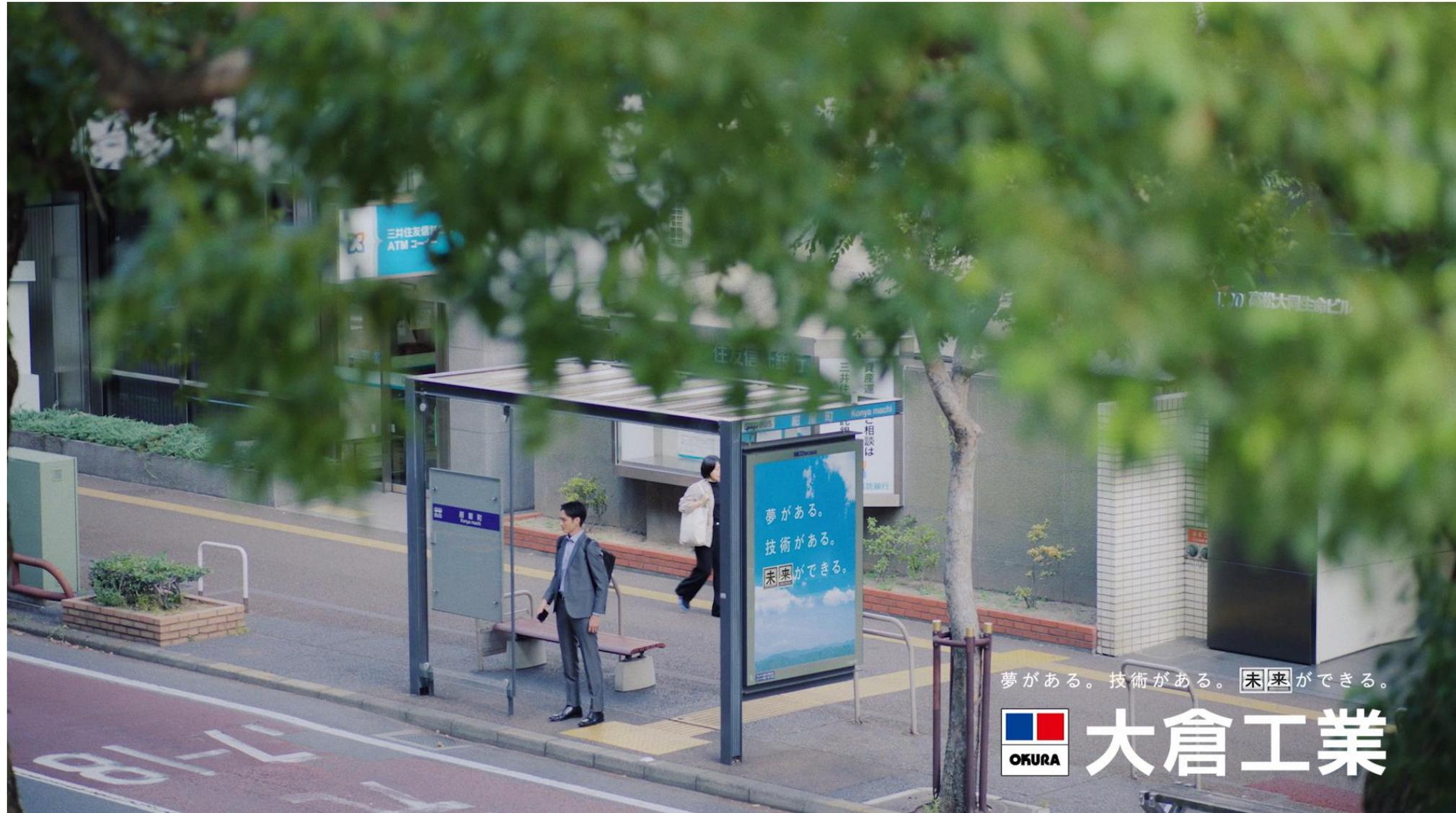
証券コード	4221 東証プライム市場 業種 化学			
社名	大倉工業株式会社 Okura Industrial Co.,Ltd.			
本社所在地	香川県丸亀市中津町1515番地			
設立	1947年7月11日			
従業員数	連結 1,883名 単体 1,054名 (2025年12月末)			
事業内容	合成樹脂事業:各種ポリエチレン製品及びポリプロピレン製品の製造販売 新規材料事業:光学機能性フィルム等の製造販売 建材事業:パーティクルボード、加工ボード、加工合板、木材加工、宅地造成及び建物建築等の製造販売			
グループ会社	連結子会社・非連結子会社(国内14社、海外2社)			
	(株)KSオークラ (株)オークラプロダクツ (株)オークラプレカットシステム オークラ情報システム(株) OKURA VIETNAM CO.,LTD.(オークラベトナム)	(株)九州オークラ (株)オークラパック香川 (株)オークラハウス 大倉産業(株)	(株)埼玉オークラ (株)ユニオン・グラビア (株)オークラBMワークス 無錫大倉包装材料有限公司	(株)カントウ (株)フジコー (2026年1月16日~) オークラホテル(株)
	関連会社(国内4社、海外1社)			
	大宝(株) 尤妮佳包装材料(天津)有限公司	オー・エル・エス(有)	大友化成(株)	中讃ケーブルビジョン(株)

連結業績・財務・株価

2025年実績			
売上高 ▲ 866.5億円	営業利益率 ▲ 7.1%	株価 (2025年12月末) ▲ 4,865円	DOE (連結自己資本配当率) ▲ 3.5%
営業利益 ▲ 61.8億円	EBITDA ▲ 112.1億円	時価総額 (2025年12月末) ▲ 603億円	配当性向 ▲ 58.2%
経常利益 ▲ 64.2億円	ROE ▼ 6.1%	PBR (2025年12月末) ▲ 0.87倍	総還元性向 ▲ 89.8%
親会社株主に帰属する当期純利益 ▼ 38.1億円	自己資本比率 ▲ 61.2%	1株当たり配当金 ▲ 195円	配当利回り (2025年12月末) ▼ 4.0%

※矢印は前年比

会社紹介動画



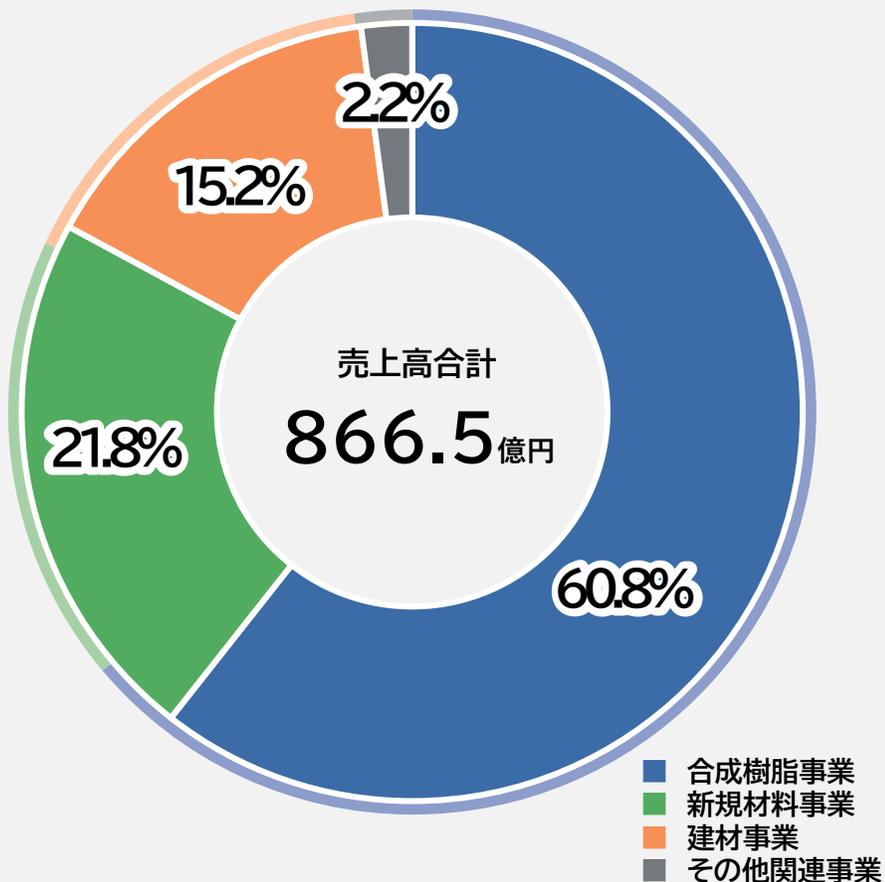
夢がある。技術がある。未来ができる。



大倉工業

事業紹介

事業別売上高比率



合成樹脂事業

暮らしに必要な不可欠な包装用プラスチックフィルムを提供しています。食品包装などのパッケージから高度な技術を要する産業資材まで多岐に渡って使われ、日々の暮らしの中で役立っています。



新規材料事業

「世界に向けてキーパーツを発信」という事業VISIONを掲げ、スマートフォンやTVなどに使われる光学フィルム、自動車部材、医療用途に使われるウレタンエラストマーフィルム等の高機能製品を世界各国のユーザーに届けています。



建材事業

住宅や家具などの生活に密着した製品の材料となる、様々な部材を提供しています。長年育んできた化粧技術や加工技術をベースとした高い技術により、住空間を優しく包みます。



製品紹介 ～合成樹脂事業～

幅広い分野を包括する製品群。さまざまな形で包み込むための技術が強みです

【事業領域】 生活サポート／プロセス機能材料／環境・エネルギー



シュリンクフィルム包装例



ラミネートフィルム包装例



リキッドパック(製品名:OKテナー®)



プロセスマテリアル製品



ベーシックマテリアル製品
(製品名:NIOGUARD®)



アグリマテリアル製品
(製品名:省之助®)

製品紹介 ～新規材料事業～

果てしなく進化する最先端技術。その進化を支えるのが私たちの使命

【事業領域】 生活サポート／情報電子／プロセス機能材料／環境・エネルギー



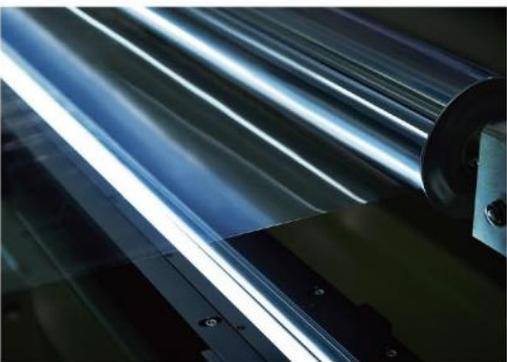
ウレタンエラストマーフィルム
(ヘッドレスト等の一体発泡成形製品用途)



ウレタンエラストマーフィルム
(医療用ドレッシング用途)



無溶剤型アクリル系接着剤
(金属板補強材の接着)



偏光板保護フィルム、位相差フィルム
(製品名:OXIS®)



中間転写ベルト



内視鏡用ウイルス感染防御システム
(製品名:Endo barrier®)

製品紹介 ～建材事業～

建物を襲う水や湿気、汚れ、衝撃など、大倉工業の建材は、これらを防ぎ、あなたの暮らしを守ります

【事業領域】 生活サポート／環境・エネルギー



パーティクルボード
(製品名:オークラボード®)



化粧パーティクルボード



構造用パーティクルボード
(製品名:Rex Board®)



JAS製材・集成材
(2026年7月販売予定)



株式会社オークラハウス



株式会社オークラプレカットシステム

当社の強み

当社の強みは、「材料設計技術」と「加工技術」です。また、各事業セグメントを通じて幅広いお客様への販路を持っているという強みも合わせ、注力領域の中で、成長する分野・用途をキャッチアップし、新たな製品開発、新事業の創出を目指します。

【注力領域における当社の強み】

領域		分野	合成	新規	建材	強み
生活サポート	人々の安心で快適な生活を支える事業	ライフサイエンス 食料・飲料 住環境 生活用品 アグリカルチャー	●	●	●	多種多様な分野での顧客とのネットワーク
情報電子	情報通信に関する事業	情報電子		●		光学フィルム加工メーカーのフロントランナー
プロセス機能材料	製品製造に役立つ部材で貢献する事業	プロセス機能材料	●	●		商品開発力・成型技術のノウハウ蓄積
環境・エネルギー	環境・エネルギー負荷を軽減する事業	環境・エネルギー	●	●	●	ユーザー・商社・流通とシステム連携

3. 成長戦略

1) 経営ビジョンNext10(2030)と中期経営計画(2027)の概要

2) 中期経営計画(2027) 1年目の成果

3) 中期経営計画(2027)における非財務戦略(サステナビリティ)の概要

経営ビジョン「Next10(2030)」

注力する領域

人々の安心で快適な生活を支える事業

食・アグリ、住空間、生活用品、ヘルスケア、医療

環境・エネルギー負荷を軽減する事業

サステナブル材料、減量化、リサイクル、省エネ

情報通信に関する事業

高速通信、フレキシブルデバイス、モビリティ

社会から
信頼される企業

技術優位な
企業集団

Next10(2030)
- 次の10年に向けた「ありたい姿」 -

「要素技術を通じて、
新たな価値を創造し、
お客様から選ばれる
ソリューションパートナー」

お客様の価値向上と
社会課題の解決に貢献し、
事業を通じて、
社会・環境価値を
創出する



中期経営計画(2027)の事業戦略



2022
Stage 2
中期経営計画(2024)

土台作り & 基盤強化

目標指標

- 売上高:840億円
- 営業利益:62億円
- 調整後ROE:8.0%

基本方針

- ① 既存事業の質的向上
⇒収益力強化
- ② 戦略・成長投資の拡大
- ③ サステナビリティ・ESG推進

2024 2025
Stage 3
中期経営計画(2027)

グループビジョン実現に向けた第3ステージ 事業領域拡大

目標指標

- 売上高:930億円
- 営業利益:70億円
- 調整後ROE:7.5%

基本方針

- ① 成長戦略の着実な遂行
⇒投資案件の確実な収益化と高付加価値製品の拡充
- ② 事業領域拡大に向けた海外事業の推進
- ③ 研究開発機能の強化による新製品の創出

2027 2028
Stage 4
中期経営計画(2030)

Next10(2030) 経営ビジョン実現

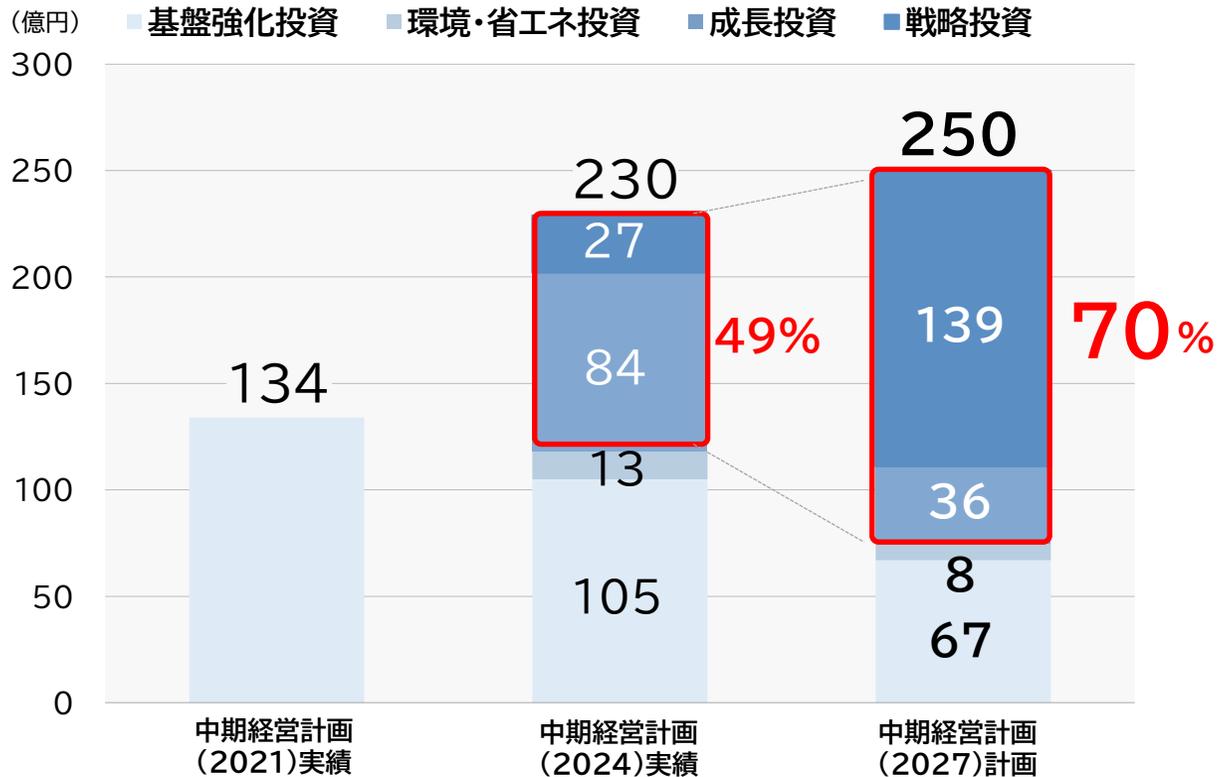
目標指標

- 売上高:1,200億円
- 営業利益:100億円

基本方針①：成長戦略の着実な遂行

Next10(2030)実現に向けた投資案件の確実な刈り取りと、成長分野での積極的な投資

設備投資推移(工事ベース)

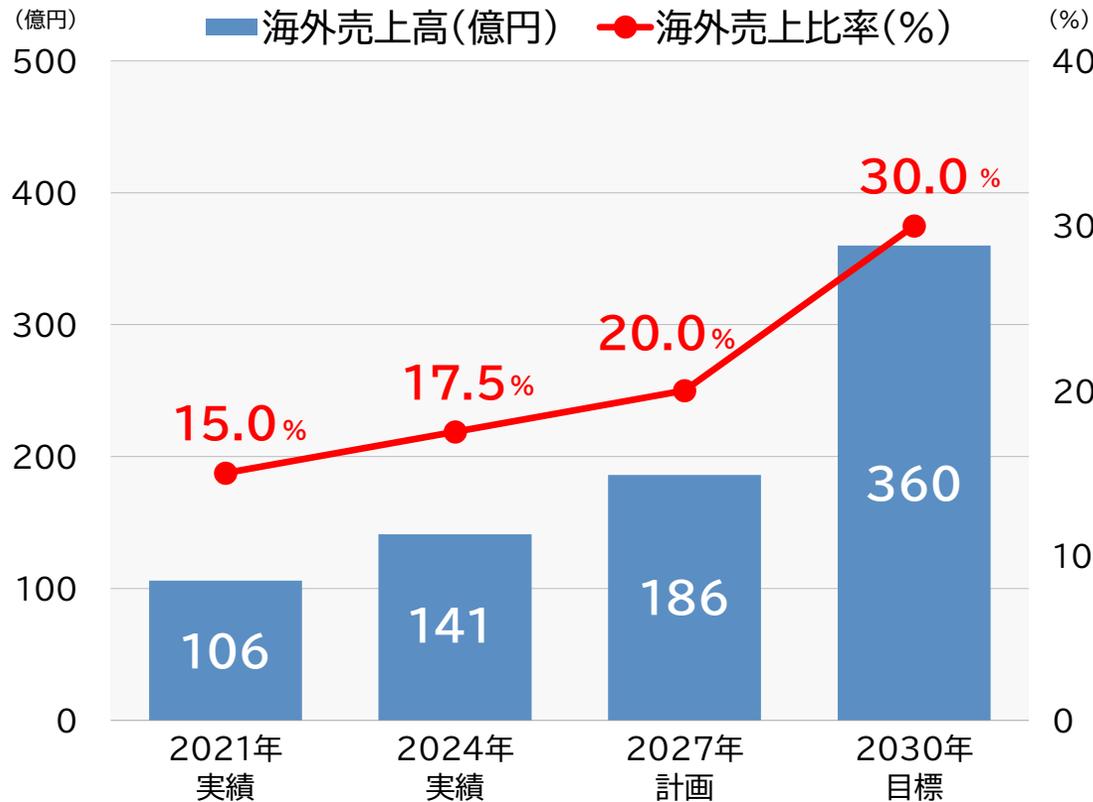


主な戦略投資(新事業、M&A等)・成長(拡充)投資案件

セグメント	案件	投資額
建材	四国地域材を活用した木質構造材料事業	43億円
R&Dセンター	環境エネルギー関連事業他	32億円
合成樹脂	コンバーティング事業	20億円
合成樹脂新規材料	モビリティ部材関連事業	17億円

基本方針②：事業領域拡大に向けた海外事業の推進

経営資源を投入し、情報電子・プロセス機能材料を中心に海外向け売上を拡大



海外向け製品の 拡販	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型ディスプレイ用アクリルフィルム拡販 ● 北米・中南米におけるライフ＆パッケージ製品の拡販 ● モビリティ・半導体市場向け高機能フィルムの拡販
ベトナム拠点の プレゼンス向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 接着剤事業の量産化と拡販 ● 労働集約型事業の移管検討
海外事業推進の ための戦略組織 の設立	<ul style="list-style-type: none"> ● 2025年1月より合成樹脂事業部内に海外事業推進部を設置 ● 市場調査、パートナー探索、新規市場開拓を推進 ● 海外エキスパート人材を外部から登用

基本方針③：研究開発機能の強化による新製品の創出

新製品テーマ創出・開発・上市のサイクルを加速させ、当社事業をリードする

R&Dセンターを中心に4つの成長領域（情報電子、環境・エネルギー、ライフ&ヘルスケア、モビリティ）を通じて材料と技術を提供し、人々の生活をより良くすることを目指す

情報電子



LCPフィルム

光学フィルム
(塗工/保護/他)

タッチセンサーフィルム

環境・エネルギー



ペロブスカイト太陽電池

各種複合部材

モノマテリアル

ライフ&ヘルスケア

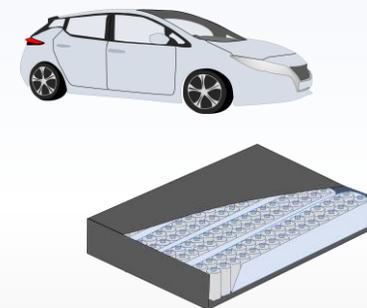


シングルユースバッグ

手術支援ロボットドレープ

植物抽出 食品包装用フィルム

モビリティ



自動車用天井材

塗装代替フィルム

EV向け接着剤

3. 成長戦略

1) 経営ビジョンNext10(2030)と中期経営計画(2027)の概要

2) 中期経営計画(2027) 1年目の成果

3) 中期経営計画(2027)における非財務戦略(サステナビリティ)の概要

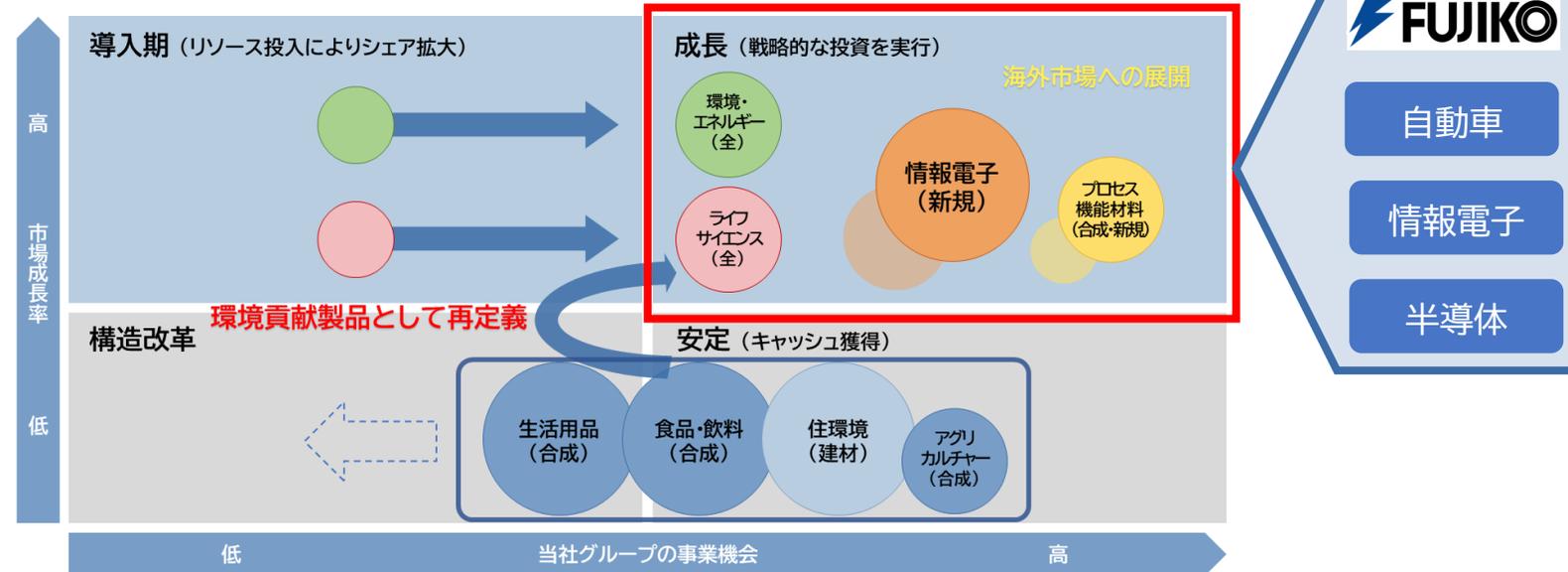
基本方針①：成長戦略の着実な遂行 ～株式会社フジコー株式取得～

【会社概要】

社名	株式会社フジコー
本社	香川県丸亀市川西町南甲284番地2
代表者	代表取締役社長 森 光弘
設立	1974年2月28日
事業内容	パッケージ事業、剥離フィルム事業、 転写印刷フィルム事業、撥水・撥油紙事業
従業員数	256名
資本金	3,000万円
売上高	96.7億円 (2024年実績)
営業利益	6.4億円 (2024年実績)
拠点	製造:本社工場、まんのう工場(香川県) 営業:静岡営業所、高知営業所

【Next10(2030)で掲げた当社の事業ポートフォリオの深化】

- 成長分野の「情報電子」「プロセス機能材料」「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」に重点的に投資
- 基盤事業である生活サポート群は環境貢献を切り口として、環境へ対応した製品への転換と拡充を目的に投資



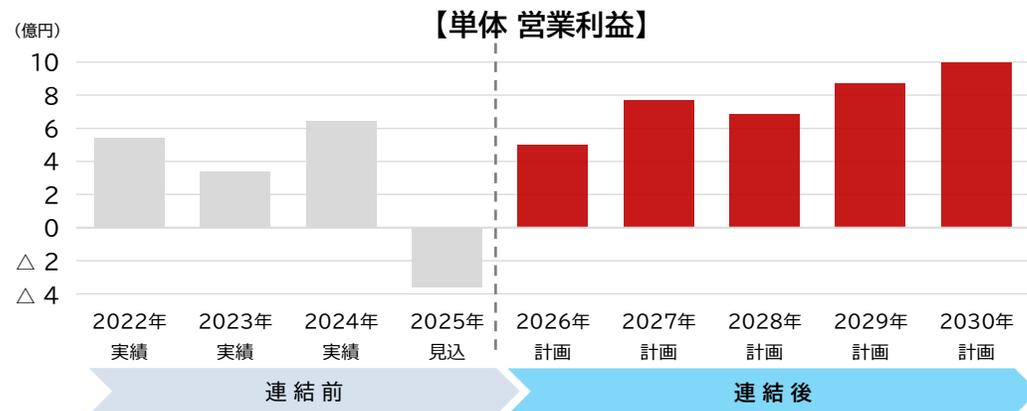
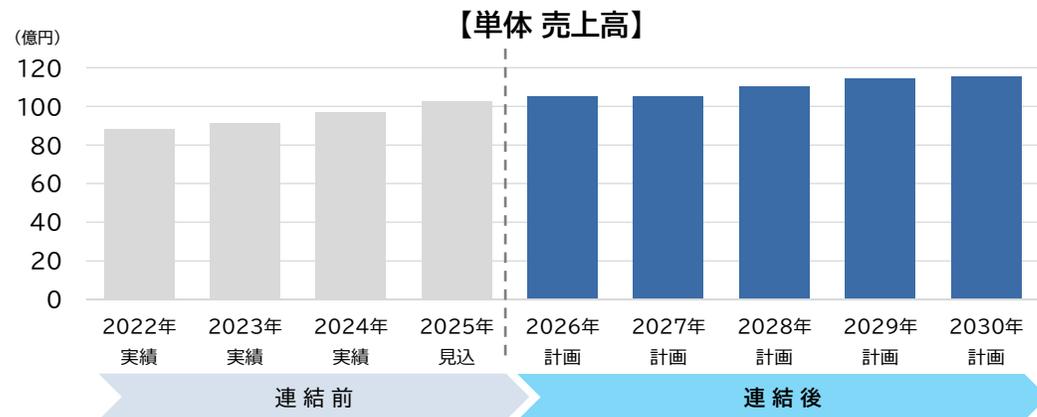
- フジコーは、自動車、情報電子、半導体関連など成長分野で、優れたフィルム加工技術により、顧客との強固な関係を構築している
⇒フジコーと協働し、事業ポートフォリオ変革の原動力に

基本方針①：成長戦略の着実な遂行 ～株式会社フジコー株式取得～

【製造・開発プロセスの融合】



【事業計画】



垂直統合型の開発・生産体制を構築し、成長分野で新製品を投入。2030年に年間10億円の利益創出を目指す

3. 成長戦略

1) 経営ビジョンNext10(2030)と中期経営計画(2027)の概要

2) 中期経営計画(2027) 1年目の成果

3) 中期経営計画(2027)における非財務戦略(サステナビリティ)の概要

ESG経営によるサステナビリティの推進

中期経営計画(2027) 方向性

非財務資本を強化し、社会的価値を追求することによって、持続可能な経済的価値を創出する

非財務資本の強化

自然資本	● 持続可能な資源の利用(脱炭素経営の推進)
人的資本	● 人的資本投資の加速、女性活躍・健康経営の推進
知的資本	● イノベーションの創出と知的財産権の取得 ● DX推進による生産性の向上と業務の効率化
製造資本	● 製造における知識の深化と経験の共有
社会関係資本	● 奉仕活動、地域ビジネスへの参画 ● ステークホルダーとの対話促進と情報開示

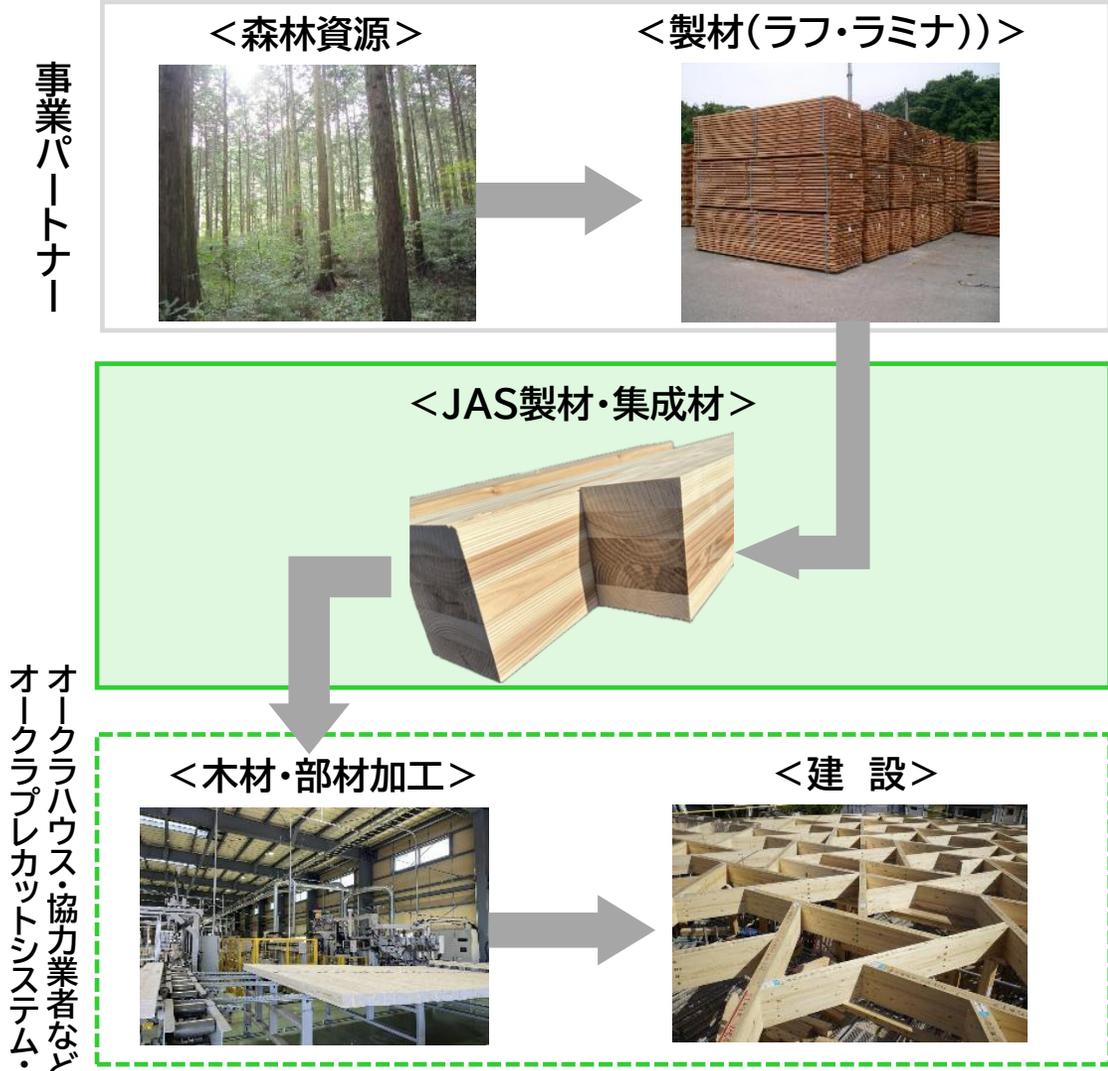


社会的価値の追求と経済価値の創出

- 環境貢献製品の創出と拡大
- 四国森林資源の利用促進
- サステナブル調達への推進
- 関係法令の遵守とコンプライアンス違反の撲滅

ESG経営によるサステナビリティの推進 ～四国森林資源の利用促進～

【事業の流れ】



事業パートナー

オークラハウス・協力業者など
オークラプレカットシステム



高瀬工場

- 2025年3月:集成材工場棟竣工
- 2025年4月:工場操業業務を受託する子会社(株)オークラBMワークスを設立
- 2026年4月の事業開始に向けてプレ生産を開始

四国地域産の木材と技術を最大限に利活用し、事業拡大、脱炭素社会を実現

4. 株主還元・株主優待

株主還元の拡充

配当方針

- ① 株主還元を経営上の最重要課題の一つとして位置づけ、継続的かつ安定的な配当を目指す
- ② 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の一環として、利益還元強化の姿勢をより明確に示すために、従来の配当性向指標に加えて、DOE(連結自己資本配当率)指標を導入

配当目標指標

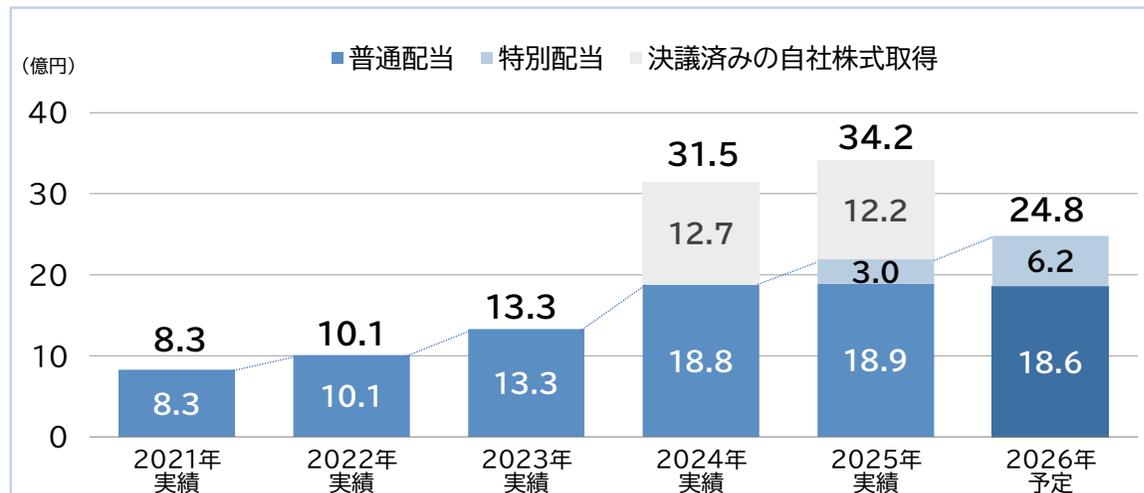
安定した利益配分	DOE:4.0% 水準 (普通配当:3.0%以上、特別配当:1.0%水準)
業績変動利益配分	配当性向:30% 以上

自己株式取得方針

株価や経営環境の変化に応じて機動的に対応

【株主還元推移】

	2024年実績	2025年実績	2026年予定
配当目標	DOE:3.0%	DOE:3.5%	DOE:4.0%
※特別配当を含む	配当性向:30%	配当性向:30%	配当性向:30%
配当総額	18.8億円	22.0億円	24.8億円
配当性向	44.6%	58.2%	57.8%
総還元性向	72.5%	89.9%	57.8%
1株当たり配当金 (中間/期末)	160円 (55円/105円)	195円 (95円/100円)	220円 (110円/110円)



株主優待

当社は、株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社グループの事業内容を一層ご理解いただくことを目的に株主優待を実施しております。

毎年12月31日現在における所有株数に応じて株主優待を贈呈しております。

単元株数	100株
100株以上 1,000株未満	QUOカード(クオカード)： 1,000円分×1 枚 オークラホテル丸亀ホテルご利用券： 1,000円分×2 枚
1,000株以上 2,000株未満	QUOカード(クオカード)： 2,000円分×1 枚 オークラホテル丸亀ホテルご利用券： 1,000円分×4 枚
2,000株以上	QUOカード(クオカード)： 3,000円分×1 枚 オークラホテル丸亀ホテルご利用券： 1,000円分×6 枚

瀬戸内コンフォート。

瀬戸内の心地よさを、他にはないここだけのロケーションで。



最後に

絆

免責事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

OKURA

個人投資家向け会社説明会

END

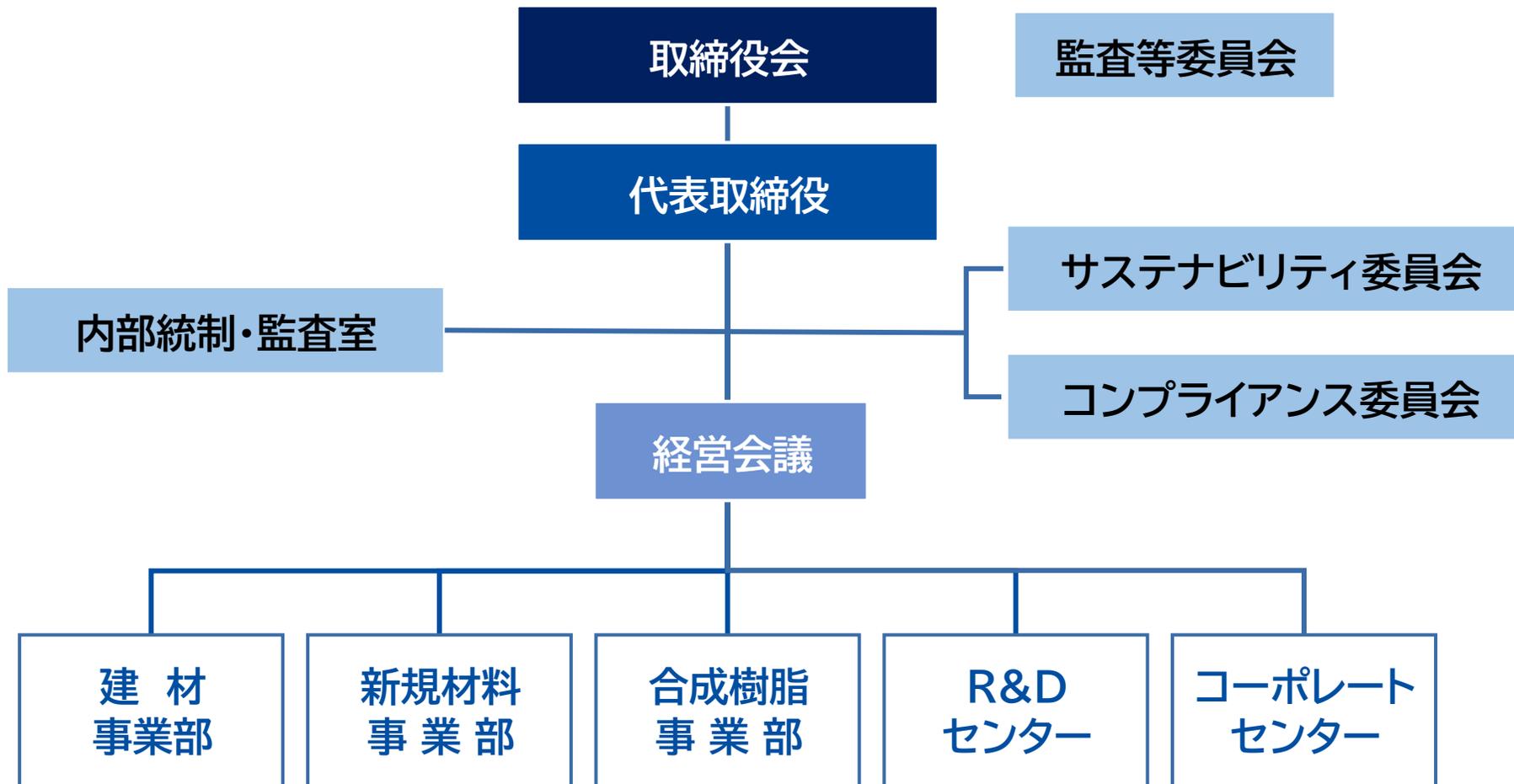
2026年2月20日

 **大倉工業株式会社**

証券コード：4221

4. 参考資料

組織図



事業所とグループ会社

コーポレートセンター

香川県丸亀市中津町1515番地 〒763-8508
TEL 0877-56-1111(代表)

新規材料事業部

香川県丸亀市中津町1515番地 〒763-8508
TEL 0877-56-1130(代表)

A棟・C棟・D棟(本社構内)、B棟(丸亀第四工場内)、北棟・G棟・H棟(仲南工場内)、上海駐在員事務所(中国)

R&Dセンター

香川県丸亀市中津町1515番地 〒763-8508
TEL 0877-56-1120(代表)

合成樹脂事業部

香川県丸亀市中津町1515番地 〒763-8508
TEL 0877-56-1150(代表)

東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島営業所
四国営業所(本社構内)
丸亀第四工場、丸亀第五工場、仲南工場

建材事業部

香川県丸亀市中津町1515番地 〒763-8508
TEL 0877-56-1258(代表)

詫間工場、高瀬工場

コーポレートセンター
R&Dセンター
合成樹脂事業部
新規材料事業部(A・C・D棟)
建材事業部

詫間工場

高瀬工場

仲南工場
新規材料事業部(北棟・G棟・H棟)

丸亀第四工場
丸亀第五工場
新規材料事業部(B棟)

広島営業所

大阪支店

名古屋支店

東京支店

中国：上海駐在員事務所

グループ会社

- (株) KS オークラ
- (株) 九州オークラ
- (株) 埼玉オークラ
- (株) カントウ
- (株) オークラプロダクツ
- (株) オークラパック香川
- (株) ユニオン・グラビア
- (株) フジコー
- (株) オークラプレカットシステム
- (株) オークラハウス
- (株) オークラBMワークス
- オークラホテル(株)
- オークラ情報システム(株)
- 大宝(株)
- オー・エル・エス(有)
- 大友化成(株)
- 大倉産業(株)
- 中讃ケーブルビジョン(株)
- 無錫大倉包装材料有限公司
- 尤妮佳包装材料(天津)有限公司
- OKURA VIETNAM CO., LTD.

沿革 | 戦災後の混乱期からの出発

1945	岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売
1946	四国住宅製材所に商号変更
1947	四国住宅株式会社を設立
1949	高松(東浜町)にて木材市売りを開始
1951	四国実業株式会社に商号変更 倉敷ビニロンを発売
1952	丸亀(城西町)にて木材市売りを開始 ※

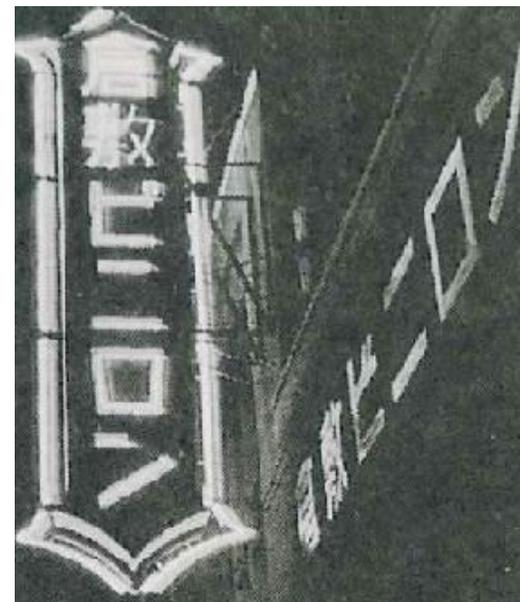
※1955年に丸亀(港町)に移転



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃



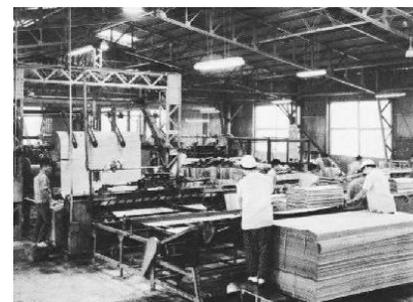
四国実業の事務所とネオンサイン

沿革 | 第一世代の偉大な歩み

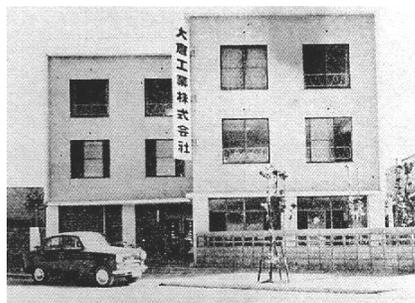
1955	【全体】大倉工業株式会社に商号変更
1956	【合成】ポリエチレンフィルム加工製造開始(港町)
1959	【合成】東京工場操業開始
1962	【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場 【合成】本社工場操業開始 【建材】ラワン合板生産に進出、石膏ボード製造開始
1963	【他】「大倉産業株」を設立
1964	【建材】プリント合板製造開始
1966	【他】ハウス事業部を新設し、 土地造成並びに住宅建て売り事業開始
1967	【全体】東京証券取引所第2部市場に株式上場 【合成】埼玉工場操業開始



ハウス部設立当時の建売物件



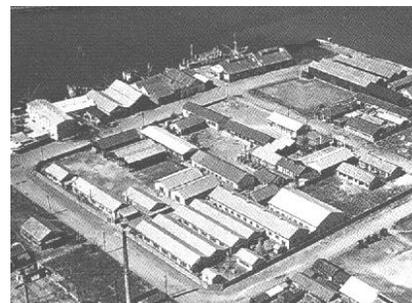
ベニヤ合板工場構内



高松本社ビル



高松(新材木町)本社



丸亀(港町)工場



本社工場構内

沿革 | 第二世代による事業の拡大

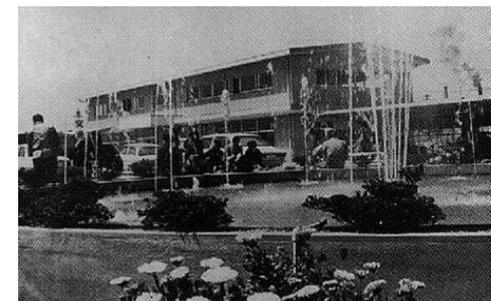
1968	【建材】詫間工場操業開始、【他】冷凍倉庫事業開始
1969	【建材】「大友化成(株)」を設立
1970	【全体】東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】パーティクルボード製造開始
1972	【全体】本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】「オークラホテル高松」がオープン
1976	【建材】パーティクルボード二次加工開始(メラハーケン)
1977	【合成】丸亀第四工場操業開始
1984	【合成】「(株)カントウ」を設立
1987	【全体】ホテル事業部と新規材料事業部を新設
1988	【他】「オークラホテル丸亀」がオープン
1992	【他】「オークラ情報システム(株)」、 【合成】「(株)ユニオン・グラビア」を設立 【合成】丸亀第五工場操業開始 【他】「(株)岡山ビジネスホテル」運営開始
1995	【合成】「(株)オークラパック香川」、 「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】仲南工場操業開始



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)



丸亀(中津町)移転後の本社

沿革 | 新たなる半世紀を見据えた第三世代

2000	【新規】C棟竣工、「オー・エル・エス(有)」を設立
2001	【合成】福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始
2003	【他】「(株)オークラハウス」を設立
2004	【全体】第一次中期経営計画がスタート 【新規】D棟竣工 【合成】「(株)九州オークラ」を設立
2006	【合成】「(株)OKプロダクツ岡山」、 「(株)オークラプロダクツ香川」を設立
2007	【全体】コーポレートセンター及びR&Dセンターを新設 【全体】第二次中期経営計画がスタート 【合成】「(株)関西オークラ」、「(株)関東オークラ」を設立
2009	【他】「(株)オークラプレカットシステム」を設立
2010	【全体】第三次中期経営計画がスタート



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)

VISION21 国際競争で優位に立てる大倉工業

沿革 | 第四世代 技術優位な企業集団を目指して

2012	【合成】「尤妮佳包装材料(天津)有限公司」を設立
2013	【全体】第四次中期経営計画がスタート
2014	【新規】G棟操業開始、オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	【全体】第五次中期経営計画がスタート、監査等委員会設置会社に移行 【合成】「(株)オークラプロダクツ」を設立
2017	【全体】会社創立70周年
2018	【他】「オークラホテル(株)」が「(株)岡山ビジネスホテル」を吸収合併
2019	【全体】経営ビジョンNext10、第六次中期経営計画がスタート 【合成】「(株)埼玉オークラ」を設立
2022	【全体】Next10(2030)に改訂、中期経営計画(2024)がスタート 【合成】「(株)KSオークラ」を設立
2023	【新規】「OKURA VIETNAM CO., LTD. (オークラベトナム)」を設立
2024	【新規】H棟操業開始
2025	【全体】中期経営計画(2027)～絆を育み、輝く未来を～がスタート 【建材】「(株)オークラBMワークス」を設立 【新規】上海駐在員事務所を設立 【合成】東京支店を東京都千代田区麴町に移転
2026	【合成】「(株)フジコー」の株式を取得し連結子会社化



新規材料事業部(G棟)



新規材料事業部(H棟)



新たなパートナー、(株)フジコー森社長を
迎える福田社長

要素技術を通じて、新たな価値を創造し、お客様から選ばれるソリューションパートナー